



① 1971年、県が実施した人形芝居用具緊急調査で見つかった車人形を動かす前田近さん。（『埼玉県人形芝居用具緊急調査報告書 埼玉の人形芝居用具 下巻』埼玉県教育委員会 1983年）目が不自由になっていたが、人形の操り方は正確に覚えており、説経節も語ることができた。②～⑥およそ半世紀ぶりに発見された車人形を復活させるため、近さんの指導で稽古が始まり、復活公演を果たした。⑦～⑩コピスみよしでの車人形公演。（※⑧・⑩撮影：千代田路子）



⑤



④



②



③



①

# 守り継がれる 竹間沢車人形

## 竹

間沢車人形は江戸時代末から明治時代の初め頃に伝わったと

され、初代座元・前田左近さんから二代目・民部みんぶさんにかけて隆盛を極めます。しかし、映画などの新しい娯楽に押されて衰退。大正10年（1921）を最後に、興行の記録が途絶えていました。

## 三芳の貴重な人形芝居を、再び。

竹間沢車人形が再び脚光を浴びるのは昭和46年（1971）。県が行った調査で前田家の納戸

から車人形の芝居道具が見つかったことをきっかけに、この伝統芸能を継承し、復活させようという動きが生まれました。

復活公演に名乗りを上げたのは二代目・民部さんの孫にあたる前田益夫ますおさんと、地元竹間沢の池上喜雄よしおさん。

「三芳に伝わる貴重な人形芝居を再演したい」と、車人形を演じたことがある前田近ちかしさん（二代目・民部さんの息子）に指導を願い猛特訓。昭和47年（1972）6月18日、200人以上の来場者の前で約50年ぶりに公演を行い、見事復活を遂げました。

## 竹間沢車人形保存会

住民の手によって守り継がれた竹間沢車人形。この灯をこの先も守り続けるため、昭和50年（1975）に竹間沢車人形保存会（以下・保存会）が発足。現在は15人が所属し、毎年開催しているコピスみよし公演に向けた練習や体験教室など、車人形の魅力を伝え、保存会の仲間を増やすための活動を積極的にを行っています。



⑮



⑪



⑧



⑬



⑬



⑭



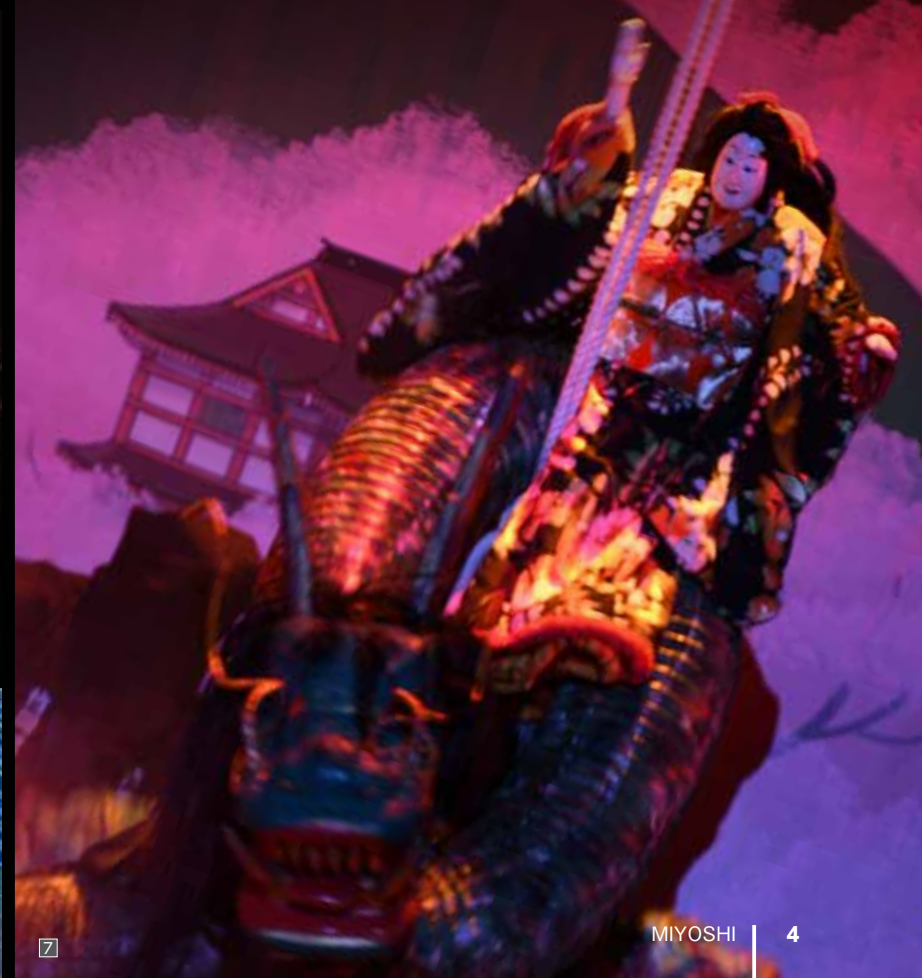
⑫



⑩



⑨



⑦